

和光大学の在学生・卒業生のみなさんへ

新聞・テレビ等の報道に接し、みなさんの驚かれた様子が目に浮かぶようです。

心配して、いろんなかたちでご連絡やご支援をいただいた方々に、この場をかりてお礼申します。

ことのあらましと、決断の根拠とは、各報道機関に示した見解を「2004年度入試における合格者の入学不許可について」と題してまとめ、16、17日両日に大学のホームページに掲げました。ただ、報道には不明確なところや、誤解を生じる箇所もありますので、いくつかのことをお伝えしておきたいと思います。

- 1) 入学不許可としたのは、当人および在學生たちにどうしたら「自由な学習と研究の場」を保障できるか、という大学の存在意義の根幹をめぐって、大学の責任あるものたちが衆知を集めて検討を重ねた結果にほかなりません。
- 2) 教職員はこうした余儀ない選択を行わざるをえなかったことを重く受け止め、研究や教育の場において、今後ともこのことの持つ意味を検証し直しつつづけなければならないと考えています。
- 3) 報道機関の絶えざる取材攻勢にさらされた際に、私どもがもっとも意を用いたのは、当人のプライバシーをどう守るかということでした。そのためにも、当人の氏名はもとより、社会的背景についても私どもの方からは漏らさず、報道機関にもそのことに意を用いてくれるように強く要請しました。

しかし、結果としてこのような事態になってしまったことを残念に思っています。大学の力量を超えた問題ではありますが、当人には大変お気の毒であり、申し訳ないことになってしまったと思っております。

在學生や卒業生のみなさんの不安や疑義がこれで解消されるとは思いません。今後も、機会のあるごとに、可能なかぎり説明責任を果たしてゆく所存であります。みなさんが和光大学の在學生・卒業生であることに自信と誇りを持ちつづけられることを確信しています。

2004年3月18日

和光大学
学長 三橋 修